

令和元年度学校自己評価

1 学校教育方針

- (1) 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる
- (2) 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる
- (3) 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる

2 目指す学校像と本年度の重点目標

目指す学校像	本年度の重点目標	人みな使命あり
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支え元気にする人材を育成する	
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する	
心豊かな学校	協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる	

4 学校自己評価結果

【 A(4)…よくできた B(3)…できた C(2)…あまりできなかった D(1)…できなかった】

評価項目		評価と改善プラン	
I	地域での学びをさらに充実させ、地域を支える人材を育成する	R 1	
	①総務部 P T Aとの協力の中で、生徒の地域活動への参加の新たな可能性を広げる	3.1	地域との連携は出来ていると思われるが、将来へ向けて新たな動きが必要である。しかし、新たなプランという面では提案、実践等今年度は不十分であったので、今後多方面での意見交換など必要である。
	②教務部 地域の外部講師、機関との関わりを促し、類型授業の動きを職員に示す	3.2	外部との連携はしっかりとれており、類型の授業の動きも職員に理解されていると感じている。
	③生徒指導部 地域行事に積極的に参加することを通じて社会人として実践力を養う	3.7	多方面にわたって地域での活動を多く行っており、地域の期待も高い。今後も継続して地域づくりにつながる活動を生徒の主体性に結びつくような実践を展開したい。
	④進路指導部 地域をキーワードとして、地域関係学部学科での学びをプロデュースする	3.7	目標は達成できているが、地域系分野の進路に興味関心のある生徒が地域アクト・アボーツ類型にほとんどいない。中学校への説明会だけでは不十分でホームページで志望理由書や卒業論文を公開する等の過激な攻めが必要であると痛感する。同時に入学してからのインプリントングを丁寧に行なっていき意識を高めたい。
	⑤保健部 家庭、学年と連携を深め、心と体の健康を自ら作り出す力を育てる	3.3	保健室での指導、健康相談など活用できていたと思われるが、生徒が自ら健康について考える機会は必要である。
	⑥1年 「地域協働活動」や「地域学入門」を通して、個々の役割を自覚し、またその役割を責任を持ってやり遂げるよう指導する	3.5	地域協働活動や地域学入門を通じて個々の役割を自覚し、責任感が伴うようになったが、不十分な点もあるため、今後も引き続き指導していきたい。
	⑦2年 総合学習の時間や地域探究を通して地域を正しく理解し、地域への愛着を深め地域貢献できる生徒の育成を目指す	3.5	総合的な学習の時間やマラソン大会への協力などさまざまな学びや活動を通して地域との繋がりを深め、地域に貢献する思いが深まり積極的に行なうことが出来るようになった。
II	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成し、学力の向上を図る		
	①総務部 地域活動で学んだことから新たな課題を提唱し、発展させられるような機会を持つ	2.8	今後の課題は多いが、具体的に話し合う機会がなかったので、早急に進める必要がある。
	②教務部 進級、卒業等の基準を含め、教務規定全体の見直しを図る	3.0	本年度に関しては大きな見直しはなかった。
	③生徒指導部 リーダー研修会等でのワークショップを通して、生徒の自主性、自発性、自律性を養う	3.5	リーダー研修会における班討議（ワークショップ）は充実し、オープンハイスクールにおいても生徒主体に行動できるきっかけとなっている。今後はクラス討議で意見を表明できる生徒の育成と学校生活改善実践ができるような取り組みをすすめていきたい。
	④進路指導部 早い時期から志望理由書に取り組み、自分を見つめ、進路決定を確かなものとする	3.6	就業体験事業でAO推薦入試対策講座を2年連続で実施した。7月段階で志望理由書をほぼ書いている生徒が合格する、という経験則が成り立つように思われる。1年生のポートフォリオ自己評価の実践が期待できる。
	⑤保健部 疾病に関する正しい知識を得て実行できるよう、実習・講習会などの機会を持つ	3.3	保健だより等こまめに発行し、また薬物乱用防止の講演会の実施などで正しい知識を広める機会を持った。今年度は保健講演会が実施できなかったので、また実施する必要がある。
	⑥1年 基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び考える力を育てるため、自学自習の習慣を身に付けさせる。	3.3	週末課題などの家庭学習を通じ、自学自習の習慣がついてきた生徒もいるが、評価がされないと行動に移せない生徒もいるため、明確な学習目標を意識づけ、基礎学力の定着に今後も努めたい。
	⑦2年 進路意識の向上と進路目標の明確化を目指して指導するとともに、進路実現に向けて学力の向上を目指す	3.1	多数の生徒が家庭学習の時間が不足している。課題や提出物においては概ね良好であるが、チェックし、提出を促すものの指導しきれなかった生徒もあった。意欲的に学習にとりくむ環境づくり、生徒が自ら学ぼうしたり、自ら考えようしたりする意識の促進。
III	授業等で得た知識をもとに、自分の考えを積極的に発言するよう指導し、豊かな自己表現ができる能力の育成を図る	3.2	多くの生徒が目標を達成できたが、一般入試への取り組みがうまくいかない。AOへの時間が取られ、他教科の学習が追いつかないのが現状である。
	協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる		
	①総務部 高校生の活動を広く地域に理解していただくための具体的な方法を考える	3.1	村岡高校の活動について以前より理解は深まっていると思われるが、まだ、理解されていない部分もある。地域だけでなくさらに広く広報活動等行い活動について理解し、興味を持ってもらう必要がある。
	②教務部 各教科でのアクティブ・ラーニングの実践を促し、研修を行う	2.6	特に研修はしていないが、各教科で創意工夫された授業が実施されていると感じている。引き続き、生徒が主体的に学べる授業の研究を進めていただきたい。
	③生徒指導部 生徒が積極的に参加する行事（村高祭等）を効果的に実施し、成就感を体得するとともに協調性を養う	3.8	生徒会を中心とした行事を主体的に取り組み大きな感動と成長を生んでいる。さらに生徒1人1人が主体性と協調性を体得し、さらに自己肯定感を持つような実践を増やしていくことが求められている。
	④進路指導部 模擬面接やグループディスカッションを通して多面的な角度から自己を見つめる	3.8	面接、とりわけグループディスカッションは、経験と慣れであると言える。3学年と進路指導部だけでなく、ハローワークの就職担当の方、管理職、事務室、教科担当、部活動顧問、地域おこし協力隊の房安さん、オール村岡で指導にあたっていただいた成果であり、誇りに思う。
	⑤保健部 健全な学校生活を送るための環境作りの重要性を自覚し、生徒・職員が協力して清掃美化活動を行う	3.2	こまめに清掃等指導していただいているが、生徒数が少なくて不十分になっているところもあり、さらに検討する必要がある。
	⑥1年 HR活動や学校行事などを通して、他人への思いやる心を育て、お互いを認め理解し、助け合える人間関係を育てる	3.3	互いを尊重し、理解し、認め合える人間関係の構築を図った。現代社会に即した場面での言動やクラスの一員としての自覚を促していきたい。
IV	⑦2年 中堅学年としての自覚を持ち集団に寄与できる生徒の育成と、互いを認め高め合う人間関係の構築を図る	3.2	学校祭、修学旅行などの行事を通して人間関係に良い影響を与え、成長した。昨年にくらべて、円滑に活動できた。内面的に問題を抱えている生徒への対応として、教育相談委員会と連携しながらカンセリングを実施した。HR、生徒会活動において、リーダー性を発揮する生徒の育成。学校生活、学習活動の中で生徒と教師、生徒同士の交流の機会を増やすため、学年間の情報交換を意識的・定期的に行なう必要がある。
	⑧3年 最高学年としての自覚を持たせ、様々な活動においてリーダー役として行動できる集団の形成を目指す	3.3	入学時から見ると、よく成長し、多くの場面でリーダーとしての役割を果たせたと思う。ただ、学年独自のカラーを出し、主体的に取り組むところまでは行かなかった。

◎学校としての今後の対応

- ・本校は地域との協働や連携を行う中で、生涯を通しての学び方と資質能力の育成を目指して日々の教育活動に取り組んでいます。今後の取組としてキャリアプランニング能力の育成とともに、探究活動と学力の向上をテーマとして生徒の自己実現（進路実現）に向けて取り組みを充実させていきます。
- ・トイレの改修については、現在県立学校施設管理実施計画により県立学校の老朽化対策が実施されており、本校は第Ⅱ期計画（2022～2026年）により、トイレ等の改修が行われる予定です。
- ・車の送迎につきましては、近隣の地域の方にご迷惑をおかけしているところがありますので、来年度早々に校舎内の待機場所等の具体的な改善案のご提案が出来ますよう検討して実施します。